

令和2年度決算 財務書類からわかる財政状況

財務書類のデータによる指標を分析することにより財政状況を多角的に分析することができます。令和2年度は、市民一人当たり10万円を支給する特別定額給付金給付事業を実施したこと等により一部の指標値に大きな変動が生じましたが、類似団体平均との比較において岡崎市の財政状況は引き続き**“良好”**と分析しています。

■ 財務書類からわかる指標(一般会計等)

分析の視点	指標	岡崎市 (カッコ内は前年度値)	類似団体 平均	指標の分析
資産の状況	市民一人当たりの資産額はいくらあるの？ (住民一人当たり資産額)	148.4万円 (147.0万円)	150.4万円 (147.9万円)	😊 類似団体平均と同程度となっており、住民一人当たりの資産規模は標準的といえます。
	資産総額は歳入何年分に相当するの？ (歳入額対資産比率)	3.17年 (4.05年)	2.81年 (3.54年)	😊 類似団体平均を上回っており、過去に道路や公共施設等のインフラ整備を推進してきたことが表れていると分析できます。
	公共施設の老朽化は進んでいるの？ (有形固定資産減価償却率)	61.2% (60.2%)	63.1% (61.8%)	😊 類似団体平均を下回っているものの、指標値は50%を超えており、資産の老朽化が進みつつあると分析できます。
資産と負債の比率	負債を除いた資産の割合はどれくらい？ (純資産比率)	85.3% (85.3%)	71.3% (70.3%)	😊 類似団体平均を大きく上回っており健全といえます。この指標が高いことは将来世代の負担割合が抑えられていることも意味します。
	公共施設に対する借金の割合はどれくらい？ (将来世代負担比率)	9.3% (9.0%)	16.5% (16.9%)	😊 類似団体平均を大きく下回っており、借金に頼らない健全な資産形成ができていると分析できます。
行政コストの状況	市民一人当たりいくらの費用がかかっているの？ (住民一人当たり行政コスト)	39.3万円 (27.9万円)	44.8万円 (33.5万円)	😊 類似団体平均を大きく下回っており、効率的な行政活動ができていると分析できます。
負債の状況	市民一人当たりの借金はいくらあるの？ (住民一人当たり負債額)	21.9万円 (21.7万円)	43.2万円 (44.0万円)	😊 類似団体平均を大きく下回っており健全といえます。過度な借金に頼らずに必要な資産形成ができていることが分析できます。
	必要な経費を借金に頼らずまかなえているの？ (基礎的財政収支)	1,520百万円 (△5,085百万円)	1,231百万円 (△614百万円)	😊 類似団体平均を上回っています。指標が黒字であることから持続可能な財政運営ができていると分析できます。
受益者負担の状況	行政サービスに対する利用者負担の割合は？ (受益者負担比率)	3.6% (6.4%)	3.7% (4.9%)	😊 類似団体平均と同程度となっています。本市の保有施設の状況を考慮しながら引き続き受益者負担について検討していきます。

※類似団体は全国の中核市とし、類似団体平均は令和4年4月8日現在、HP等で財務書類を公開している45市(岡崎市を含む)のデータから岡崎市が独自に算出したものです。(前年度平均は、全ての中核市のデータに基づき総務省が算定した値です。)

■ 岡崎市の資産・負債の状況(一般会計等)

資産(本市が保有している財産)		負債(将来の世代の負担となるもの)	
土地・建物など (道路・公園・庁舎など)	5,125億円	地方債(借入金)	624億円
ソフトウェア	7億円	引当金(退職・賞与等 引当金など)	154億円
投資・出資金など	379億円	その他(未払金・預り 金など)	68億円
現金・預金	94億円	負債合計	846億円
財政調整基金	121億円	純資産(これまでの世代が負担したもの)	
その他(未収金など)	7億円	純資産合計	4,887億円
資産合計	5,733億円	負債及び純資産合計	5,733億円

◎ 市民一人当たりに置き換えると・・



将来世代への負担(借金)が少ない健全な財政状況が保たれています!